

第59回 全日本聾教育研究大会
(長崎大会)
開催要項



全日本聾教育研究会

J.A.E.R.D

Japanese Association of
Educational Research for the Deaf

全日本聾教育研究会
九州地区聴覚障害教育研究会
全日本聾教育研究大会(長崎大会)実行委員会

令和7年(2025年)10月16日(木)~17日(金)

第59回 全日本聾教育研究大会（長崎大会） 開催要項

1 大会名称 第59回全日本聾教育研究大会（長崎大会）

2 大会主題 「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫」
～言語能力の育成を図り、思考力・判断力・表現力等を向上させるための指導・支援～

【主題設定の理由】

中央教育審議会において答申された「令和の日本型学校教育」の構築では、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「社会とつながる協働的な学び」を実現する学校の在り方が示された。また、特別支援学校においては、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの推進とともに、グローバル化や少子高齢化、情報化などの社会の変化への対応が求められており、子供たちが予測困難で変化の激しい社会でより良く生きていくために、自ら考え行動し、自らの学びを深める資質・能力を身につけさせる必要がある。

特別支援学校学習指導要領では社会に開かれた教育課程の実現やカリキュラム・マネジメントの確立とともに、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導改善を重視し、聴覚障害教育においては、「学習の基盤となる言語概念の形成と思考力の育成」や「言葉等による意思の相互伝達」の育成を柱としている。

特別支援学校（聴覚障害）において言語能力の育成は、コミュニケーション力や自ら考え学ぶ力を育み、学習の質を高め、他者と協働しながら豊かに生きる力につながる。子供の能力を最大限に伸ばすために、個々の実態を把握し、適切なコミュニケーション手段を選択・活用しながら日本語の習得や言語概念の形成を通して、思考力・判断力・表現力等を育成するための実践や研究を推進する必要がある。併せてこれまでの長い歴史で培った聴覚障害教育の「専門性」を継承し、発展させていくことや、一人一人の子供たちのニーズに応じた効果的な指導法の探究にも努めなければならない。

本大会では、「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫」について、各校の実践研究を持ち寄り、協議しながら情報を共有し、課題を整理し、さらに今後の展望について協議を深め、聴覚障害教育に携わる教師としての資質の向上と専門性の継承・発展を願い、本主題を設定した。

3 会 期 令和7年（2025年）10月16日（木）・17日（金）

4 会 場

[公開・指定授業]

・長崎県立ろう学校

（幼稚部・小学部・中学部・高等部本科・高等部専攻科）（寄宿舍公開）

〒856-0807 長崎県大村市宮小路3丁目5番5

TEL 0957-55-5406 FAX 0957-55-5410

[研究協議・分科会]

・出島メッセ長崎

〒850-0058 長崎県長崎市尾上町4番1号

5 主 催 全日本聾教育研究会 九州地区聴覚障害教育研究会

6 主 管 校 長崎県立ろう学校

- 7 協力校 福岡県立福岡聴覚特別支援学校 福岡県立久留米聴覚特別支援学校
 福岡県立小倉聴覚特別支援学校 福岡県立直方特別支援学校
 福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校 佐賀県立ろう学校 熊本県立熊本聾学校
 大分県立聾学校 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 宮崎県立延岡しろやま支援学校
 鹿児島県立鹿児島聾学校 沖縄県立沖縄ろう学校
- 8 後援（予定） 文部科学省 長崎県教育委員会 大村市教育委員会 全国聾学校長会 全国聾学校教頭会
 全国特別支援学校長会 九州地区聾学校長会 九州地区聾学校教頭会
 長崎県特別支援学校長会 全国ろう学校 PTA 連合会
 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 公益財団法人日本教育公務員弘済会長崎支部
- 9 協賛（予定） 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会 小川再治研究協賛会

10 記念講演

[講師] 筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏
 [演題] 「聴覚障害児の可能性を極みまで信じて」

11 大会日程及び会場

(1) 大会事前日程

指定授業【動画：オンデマンド配信】【指導案：大会ホームページより閲覧】

	期 間	配信、事前質問送付先
配信期間 指導案掲載期間	令和7年9月8日（月）から10月15日（水）まで	※今後、お知らせします。
事前質問受付	令和7年9月8日（月）から 9月22日（月）まで	

(2) 大会当日日程

月 日	時 間	日 程	会 場	留 意 点
前日 10月15日(水)	13:30~14:30 15:00~16:30	大会運営委員会（最終確認） 全日本聾教育研究会全理事協 議会	出島メッセ長崎	
1日目 10月16日(木)	8:50~	学校公開 受付	長崎県立ろう学校	※学校公開、公開 授業のみ、人数制 限あり
	8:50~ 9:20 9:30~10:20	学校公開、寄宿舍公開 公開授業、寄宿舍公開		
	10:30~11:30	【寄宿舍指導員 参加希望者】 寄宿舍指導員情報交換会	長崎県立ろう学校 会議室	各自で出島メッセ 長崎へ
	10:30~13:00 12:30~	会場移動・休憩・昼食 授業研究分科会 受付	シャトルバス（乗 車希望者）で出島 メッセ長崎へ 出島メッセ長崎	※指定授業は事前 配信された動画を 視聴し、授業研究 分科会に参加して ください。
	13:00~14:30	授業研究分科会 （幼・小・中・高・分教室）		
	15:00~15:30	開会式		
15:40~17:00	記念講演			

2日目 10月17日(金)	9:00～	受付	出島メッセ長崎
	9:30～12:00	研究協議分科会	
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:45	研究協議分科会	
	15:45～16:00	閉会行事（各分科会ごと）	

※1日目(16日の午前)、本校で開催予定の学校公開、公開授業のみ学校規模を勘案し、各校2名、分教室1名程度に人数を制限させていただきます。寄宿舎公開および寄宿舎指導員情報交換会については、制限いたしません。午後に出島メッセ長崎で開催する授業研究分科会からは人数の制限はいたしません。予めご了承ください。

(3) 大会事後日程

	方 法	期 間
記念講演	後日、全日聾研ホームページの会員ページに掲載	※今後、お知らせします。

(4) 会場

①授業研究分科会（1日目）：出島メッセ長崎

	分科会	会 場
1	幼稚部	1階 102
2	小学部	1階 103
3	中学部	1階 107
4	高等部	1階 108
5	分教室	1階 105

※分教室分科会では、小規模校における校内研究の取組、学部間の連携の在り方等について報告します。また小規模校における取組についての意見交換を計画しています。

②研究協議分科会（2日目）：出島メッセ長崎

	分 科 会	会 場
1	早期教育	1階 102
2	教科指導（小学部）	1階 103
3	教科指導（中学部・高等部）	1階 107
4	寄宿舎教育	1階 105
5	自立活動（聴覚活用、発音・発語、言語指導等）	1階 109
6	自立活動（コミュニケーション、障害認識等）	1階 108
7	関係機関との連携、センター的機能	1階 110
8	重複障害教育（発達障害含む）	1階 111
9	キャリア教育	1階 116

12 設定分科会

(1) 授業研究分科会

○研究テーマ：「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫

～言語能力の育成を図り、思考力・判断力・表現力等を向上させるための授業改善～

分科会	研究テーマ	助言者
幼稚部	「みて、きいて、かんがえ、自分なりに表現し、伝え合いを楽しむ子」を目指した授業づくり	聴覚障害者教育福祉協会 専務理事 松本 末男 氏

小学部	小学部における思考力・判断力・表現力等を向上させるための授業づくり ～各教科の見方・考え方を意識した教師の意図的な発問や板書・教材等の工夫を通して～	東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏
中学部	自ら学ぶ力を育むための授業改善 ～思考を促す発問の工夫と、振り返りシートを活用した生徒の学びの分析を中心に～	筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏
高等部	自分の考えをもち、伝え合う力を高める授業づくり ～授業計画シートの活用を通して～	筑波技術大学 准教授 脇中 起余子 氏
分教室	授業研究会における授業改善の視点の研究	大阪教育大学 教授 井坂 行男 氏

(2) 研究協議分科会

	分科会名	協議主題（分科会テーマ）	助言者
		主題設定の理由	運営担当校
1	早期教育	豊かな言葉や心情を育むための早期教育実践上の工夫について考える。	信州大学 特任教授 庄司 和史 氏
		幼児は、親しい人との関わりや様々な体験の繰り返しにより言葉や表現を身につけていく。豊かな言葉を育むことは、コミュニケーションの土台を築き、小学校以降の学習の素地となる。聴覚障害を有する幼児の豊かな言葉や心情を育むための、専門性を生かした幼児教育実践上の工夫について研究する。	福岡県立福岡聴覚特別支援学校
2	教科指導 (小学部)	自らの思いや考えを伝える力を育むための実践の工夫について考える。	東北福祉大学 教授 大西 孝志 氏
		コミュニケーション力を向上させるためには、小学部段階において、主体的に自らの思いや考えを相手に伝えることができるような授業の工夫が求められる。児童が自分の思いや考えを言葉に結びつけて、豊かな表現で伝えていくことができる指導の在り方について研究する。	福岡県立小倉聴覚特別支援学校
3	教科指導（中学部・高等部）	聴覚に障害のある生徒に対する教科の本質に関わる指導・支援の工夫について考える。	筑波技術大学 准教授 脇中 起余子 氏
		中学部・高等部において、教科で使用する語句が難解になり、語句指導に授業時間を割いてしまうという実情がある。準ずる教育課程を基本として教科教育を行う聾学校（聴覚特別支援学校）において、言語力の育成を図りながら各教科の本質に関わる指導・支援を行うためにどのような工夫ができるかということについて議論を深めたい。	福岡県立久留米聴覚特別支援学校
4	寄宿舎教育	共生社会で生きる力を育む寄宿舎教育について考える。	福岡県立久留米聴覚特別支援学校 元校長 坂口 和俊 氏

		共生社会の形成に伴い、障害のある生徒が社会参加を果たし、様々な課題に対応していくために自主性や協調性、コミュニケーション力がより必要とされている。そこで寄宿舎生活において、個々の実態を把握した上で、共生社会を生きるための資質、能力を育むための支援や指導の在り方、方法の工夫について考える。	福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校
5	自立活動 (聴覚活用、 発音・発語、 言語指導等)	医療・補聴技術の進歩や幼児児童生徒の多様化に対応し、思考力・判断力・表現力等を向上させる自立活動（聴覚活用、発音・発声、言語指導）の在り方について考える。	同志社大学 教授 中瀬 浩一 氏
		補聴器・人工内耳・補聴援助システムなどの技術進歩による聴覚活用の促進、幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化に対応するとともに、子供たちがこれからの社会でより良く生きていくために必要とされる思考力・判断力・表現力等を向上させるための自立活動（聴覚活用、発音・発声、言語指導）の在り方を考える。	宮崎県立都城さくら聴覚支援学校
6	自立活動 (コミュニケーション、障 害認識等)	自他ともに尊重できる障害認識の支援と協働する力を支えるコミュニケーション力の育成の在り方について考える。	金沢大学 教授 武居 渡 氏
		変化の激しい社会の中でより良く生きていくためには、他者との関わりを通して自己への肯定的認識や聞こえる周囲に対する認識とセルフアドボカシーの力を高めることが必要となる。また自ら主体的に生きるために不可欠となる他者と協議・協働できる適応力や対応力を支える円滑なコミュニケーションの力を育成するための指導や支援の在り方について研究する。	沖縄県立沖縄ろう学校
7	関係機関との 連携、センター 的機能	聴覚障害のある全ての子供たちの成長を支える聾学校としての取組や役割について考える。	福岡教育大学 講師 喜屋武 睦 氏
		聴覚障害のある全ての子供たちが明るい未来に向けて、生き生きと暮らす力を身に付けるために、これまで以上に地域との連携を強化し、センター的な役割を果たす必要がある。これまでも巡回相談や来校相談、通級による指導などを行ってきたはいるが、地域に在籍する全ての聴覚障害のある子供たちに十分な支援が行き届いているとは言い難い。そこで聾学校がすでに取り組んでいるセンター的機能の見直しを行い、地域や関係機関と協働した新たな取組についても探りながら、課題解決や更なる支援の充実に向けた取組について研究する。	鹿児島県立鹿児島聾学校

8	重複障害教育 (発達障害含む)	一人一人の障害の状態や発達段階に応じた指導・支援の工夫について考える。	宮城教育大学 教授 松崎 丈 氏
		聴覚障害と併せ有する障害が多様化し、子供たち一人一人の実態も拡がりを見せており、多様なニーズへの対応が求められている。重複障害のある子供たちが自ら考え、判断し、表現する力を育成するために、一人一人の特性・発達段階に応じて、実際の・具体的な指導を展開する工夫が求められている。重複障害の重度化・多様化等に応じたきめ細やかで効果的な指導・支援について研究する。	熊本県立熊本聾学校
9	キャリア教育	キャリア教育が目指す基礎的・汎用的能力「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を踏まえ、聾学校における社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の在り方について考える。	長崎県聴覚障害者情報センター 所長 西川 研 氏
		多様化する社会の中で、逞しく生き抜いていく力を培う上で、キャリア教育は重要な役割を担う。文部科学省が示すキャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力を踏まえるとともに、聾学校がこれまで蓄積してきたノウハウを再認識し、聾学校における社会的・職業的自立を目指すキャリア教育とは何かを再認識する。また幼少期から就労後までを見据えた目標設定や系統的な支援、自立活動との関連等、具体的な取り組みや課題について議論し、聾学校におけるキャリア教育の在り方を考える。	佐賀県立ろう学校

13 開会式次第

- (1) 開式の辞
- (2) 挨拶 全日本聾教育研究会 会長
長崎大会実行委員長 (長崎県立ろう学校長)
- (3) 来賓挨拶 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官
長崎県教育委員会教育長
- (4) 来賓紹介 長崎大会実行委員会 副会長
- (5) 閉式の辞
- (6) 諸連絡 大会事務局

14 閉会式次第 (各研究協議分科会場において VTR を放映)

- (1) 開式の辞
- (2) 挨拶 全日本聾教育研究会 会長
長崎大会実行委員長 (長崎県立ろう学校長)
青森大会実行委員長 (青森県立青森聾学校長)
- (3) 閉式の辞

15 大会参加費 会員 2,000 円 会員外 3,500 円 学生 1,000 円 (学部生、参観のみ)

16 研究発表 研究協議分科会の研究発表の資格は会員であることとします。なお、地区研究会に所属していない大学教員等は、本部事務局が対応、掌握の上、会員資格を得てください。発表件数が多い研究協議分科会においては、発表時間を十分に設定できない場合があります。また研究発表は、一人一本までとします。予めご了承ください。

全日本聾教育研究会本部事務局 連絡先
〒272-8560 千葉県市川市国府台 2-2-1 筑波大学附属聴覚特別支援学校内
TEL 047-371-4135 (代) FAX 047-372-6908

17 大会参加の申込

申込み内容	締切日	申込み・送付先
大会予備調査	令和7年(2025年)3月28日(金)	長崎大会事務局(長崎県立ろう学校内) ※専用のWebフォームから仮申込みをしてください。
大会参加申込み 研究発表申込み シャトルバス申込み	令和7年(2025年)6月13日(金)	長崎大会事務局(長崎県立ろう学校内) ※専用のWebフォームから申込みをしてください。
研究発表原稿提出	令和7年(2025年)7月25日(金)	
宿泊・昼食等について	宿泊、昼食の手続きについては、参加者自身で行ってください。 ご協力お願いいたします。	

18 情報保障について

全体会(開会式、記念講演)では、手話通訳、音声認識の文字変換による字幕を準備いたします。授業研究分科会、研究協議分科会においては、支援を必要とする参加者がいる場合に情報保障を行いますので、情報保障を希望される場合は、参加申込み時に必要な情報保障にチェックを入れてください。

19 自然災害等における対応について

- (1) 気象警報が発表された場合も原則として大会は実施します。ただし、公共交通機関に影響があり主管校の教職員が出勤できない場合は長崎大会を中止とし、その旨を大会ホームページに掲載します。
- (2) 気象警報の発表、感染症等により臨時休業になった場合は、幼児児童生徒は登校しません。そのため公開授業は中止となりますが、指定授業については、事前に撮影した授業動画をご覧いただく予定です。
- (3) 公開授業が中止となる場合は、その旨を大会ホームページに掲載します。また受付時間と場所等が変更になります。

	通常開催	公開授業が中止になる場合
受付時間および場所	8:50~9:20 (長崎県立ろう学校)	12:30~13:00 (出島メッセ長崎)

20 大会事務局及び連絡先

第59回全日本聾教育研究大会(長崎大会)事務局
〒856-0807 長崎県大村市宮小路3丁目5番5 長崎県立ろう学校内
TEL 0957-55-5406 FAX 0957-55-5410
E-mail zennichiro-nagasaki@zennichiro-con.sakura.ne.jp
大会実行委員長:坂本 志子 大会事務局長:戸上 敦史